

はじめに

メタデータ	言語: jpn 出版者: 公開日: 2020-05-12 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: メールアドレス: 所属:
URL	http://hdl.handle.net/2297/00058139

This work is licensed under a Creative Commons Attribution-NonCommercial-ShareAlike 3.0 International License.



研究紀要

第62号

「伝統文化教育を中心とした教科等横断的なカリキュラムの開発」(3年次)
ーグローバル社会に生きるために必要な資質・能力の育成を目指してー

令和2年

金沢大学附属中学校

はじめに

金沢大学附属中学校

校長 端崎 圭一

本校では、平成 29 年度と 30 年度の二年間、国立教育政策研究所の研究指定を受け「伝統文化教育を中心とした教科等横断的なカリキュラムの開発」に取り組みました。本年度は、研究指定を受けておりませんが、伝統文化教育研究のまとめの年と位置付けて、鋭意、研究を行なってまいりました。

本研究は、平成 26 年度から三年間行ないました E S D（持続可能な開発のための教育）を基盤としております。そこでは、生徒たちの代替案の思考力や多面的・総合的に考える力等の汎用的な能力を教科等横断的なカリキュラムの中で日常的に鍛えていくところに特色がありました。

この E S D 研究で得たものを活かしつつ、平成 29 年度と 30 年度の二年間は、各教科等のねらいを達成するために、どのような伝統文化に関わる実践が効果的であるのか、また、伝統文化を柱として、教科が連携して取り組むことのできる単元・題材にはどのようなものがあるのか等の検討を積み重ねてまいりました。さらには、「グローバル社会に生きるために必要な資質・能力」とは何であるのかの洞察を深め、これまで積み上げてきた多くの実践事例を基に、体系的な伝統文化に関する教育課程の編成を試みました。

本年度は、これら二年間の取り組みの精選を進めました。教育課程面においては、本研究を通して策定したグランドデザインを素地として、グローバル社会に生きるための資質・能力を育成するためのカリキュラムデザインの完成を目指しました。また、実践面においては、これまでの授業を振り返り、何が効果的で何が効果的でなかったかを考えつつ、全国の学校で活用してもらえよう実践例の開発を目指しました。

本研究に関しましては、たどり着くべき水準や必要な要素など、不明瞭で未整理なものが、まだまだ沢山ございます。皆さまからのご指導やご鞭撻をいただきながら、今後も成長をしていきたいと考えております。本紀要をお読みいただき、本校の研究に対する忌憚のないご意見を賜ることができれば幸いです。

最後になりましたが、この三年間の研究に取り組むにあたり、懇切丁寧なご指導・ご助言をいただきました文部科学省調査官の藤野敦先生に厚く御礼申し上げます。

令和 2 年 3 月